

# 能登半島地震で DMAT が出動

1月1日午後4時10分ごろ、石川県能登半島の志賀町で震度7、輪島市、七尾市、珠洲市、穴水町で震度6強を記録した令和6年能登半島地震が発生しました。この地震により、202人が死亡(1月9日現在)、住宅被害の状況はいまだにつかめず、22地区3123人の人が孤立(1月9日現在)、安否不明者323人(1月8日現在)という状況になっています。

城西病院 DMAT チームは、1月5日、石川県を通じて茨城県に要請された第3次派遣を受けて出動を決定。6日午前4時半、村田医師、近藤看護師、福嶋看護師、津久井看護師、永井業務調整員、井形業務調整員の6人が車3台に分乗し、参集拠点本部となった七尾市の能登総合病院を目指しました。

チームは午前12時50分ごろに到着。参集拠点本部で打ち合わせを行い、午後1時半ごろ、今回の地震で一番大きな被害を受けた輪島市に向けて出発しました。

七尾市からは道路が寸断され、高速道路も使用できず、輪島市まで唯一緊急車両が通行できる国道249号線から穴水町を通り、県道1号線で山間部を抜けて輪島市に至るルートを通りました。

震度6強に襲われた地域では、家屋の倒壊が相次ぎ、至る所で道路が陥没、土砂崩れや2メートル以上にも及ぶ岩が崩れ落ちて道路の半分を埋めるなどの状況が続いていました。通常ならば1時間半もあれば到着する距離ですが、4時間半かけて市立輪島病院に到着しました。

輪島市(人口約23000人)では、地震によって81人の命が奪われ、51人が重軽傷を負い、14地区2750人が孤立。市内164カ所に避難所が開設され、約12000人が不安な日々を送っています(1月9日現在)。

市立輪島病院では、多くのDMAT隊をはじめ、自衛隊なども集まり、病院を拠点に市内の医療支援活動に当たるとともに、市内で唯一の病院として被災者などの診療活動も行っていました。

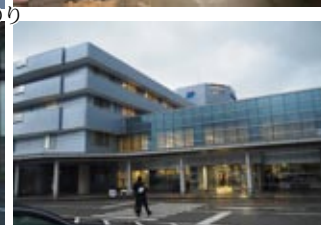
病院にはひっきりなしに救急車が到着、断水状態の中で診療活動を続けていました。



活動拠点本部の能登総合病院に到着



市立輪島病院までの厳しい道のり



市立輪島病院で支援活動を開始

